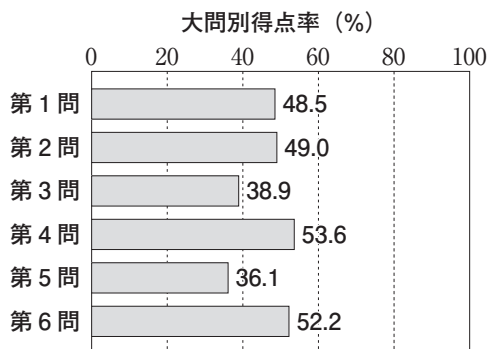
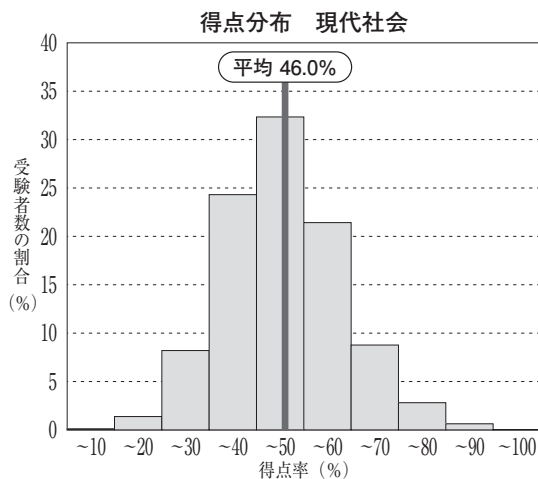


現代社会

学習していない分野だけでなく、一度学んだ分野の復習も。

I. 全体講評

6月実施の「全国統一高校生テスト 現代社会」の受験学年の平均点は46.0点であった。今回最も得点率が高かった第4問「資本主義と社会主義」でも6割の得点率には到達していない。また、「政治・経済」分野のなかでも早い段階で学習に着手する受験者が多いことが想定される第5問「基本的人権」が、平均得点率を大幅に下回る3割台の得点率となっている。本番レベルに対応できるようになるためには、まだ学習を完了させていない苦手な分野・事項への対策が必要であるだけでなく、学習した分野でもまだまだ復習が必要であることが示された結果となっている。



II. 大問別分析

第1問 国際連合

時事分野からは外れるが、直近の歴史的事項の学習を。

高校生の多くが苦手とする傾向のある国際政治分野を中心に、国際社会について幅広く出題した大問である。得点率は48.5%と、この模試の平均得点率をやや上回った。受験者の相当数が一定の学習を進めていることを示す結果となっている。そのなかで、1980年代から2000年代の国際紛争について問うた問3 [3]や、2000年代の日本政治について問うた問4 [4]は、いずれも3割以下の正答率となった。直近20年程度の事項は、出題者にとってはリアルタイムで体験してきたことなので、現在の事事的事項の前提知識としての出題が想定される。事事的分野で扱いきれないこの時代の事項も、テキストなどでしっかりインプットしよう。

第2問 宗教、文化

「倫理」分野の学習の徹底を。

国際交流に必要な相互の宗教・文化理解に関する「倫理」分野中心の出題だが、この模試の平均得点率をやや上回る49.0%という得点率の大問となった。問2 [10]、問3 [11]、問5 [13]は正答率が4割未満であった。特に正答率が低かったのは日本の伝統思想と外来文化の受容について尋ねた問2 [10]で、この大問で最も低い正答率であった。内村鑑三と中江兆民を混同していた②の選択率が正答率を上回ったが、「倫理」分野の学習を理解しておけば選ばずにすむ選択肢であった。

第3問 財政・景気

理論的事項を中心に、もう一度学習の徹底を。

高校生が苦手とするケースが多い、経済分野の理論的事項を中心とする大問。得点率は38.9%と、この模試で2番目に得点率の低い大問となった。特に国民所得について問うた問4 [17]は正答率が13.2%であり、この模試中最も正答率の低い設問と

なった。問4 [17]では正答選択肢以外が正答選択肢よりも高い比率で選ばれており、まったくイメージができず、とりあえず知らない語である「NI (狭義の国民所得)」を回避して他の選択肢を選んだ受験者が多数であることを示している。

第4問 資本主義と社会主義

学習した分野でもより詳細な確認が必須

「政治・経済」分野のなかでも苦手とする高校生が多いと想定される国際経済分野からの出題が中心の大問であったが、得点率53.6%と、この模試で最も高い得点率の大問となった。そのなかで、**資本主義の歴史**についての出題であった問5 [26]の正答率が26.3%となっている。問5 [26]についてはフリードマンについて理解していないため選んだと思われる③の選択率が正答率を超えており、多くの受験者にはケインズ以後の経済学者の知識が定着していないことが明白となっている。

第5問 基本的人権

重要事項は、知識として定着させておくこと

政治分野としても最も初期に学習するケースが多い分野からの出題であったが、得点率36.1%と、最も低い得点率の大問となった。そのなかでも基本的人権の基礎的事項について問うた問1 [27]、および人権保障に関する問3 [29]がともに3割を切る正答率となっている。特に問1 [27]は、最重要事項である「プログラム規定説」を知っていれば正答である②を選べる設問だったが、③・④を選ぶ受験者が正答率を超えていた。重要事項を把握しきれず、あいまに選択肢を選んでしまった受験者が相当数いることを示す結果となっている。

第6問 地球環境問題

知っている事項でも学習して確認を。

現代社会の諸課題の一つとして重要であり、高校生の興味が向きやすい分野からの出題であったこともあり、得点率52.2%と、2番目に高い得点率の大問となった。そのなかで**地球温暖化防止に向けた国際的な取り組み**について出題された問3 [34]が2割未満の正答率となっている。京都議定書では発展途上国は削減目標を設定されていないという重要事実と背く内容の②が4割以上の割合で選ばれており、あやふやな理解で知っている事項の名称に飛びつ

た受験者が多いことを示している。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆理論的事項の正確な理解を。

今回の模試の結果からは、センター本番まであと7か月弱という状況で、一定の学習は完了しているものの、まだまだ本番レベルの知識が身につけていない受験者が多いことが、当然ではあるが推測される。「現代社会」は常識である程度得点できる、という感覚では、本番で合格レベルの得点を取ることには難しい。さっと学習して知識をおおざっぱに入れば得点が稼げるという科目ではない。特に受験者にとってもよくニュースで接する事項を取り上げた分野である第6問の問3 [34]の出題傾向でも明白だが、**受験者の常識や通り一遍の知識だけでは太刀打ちできない種類の要素**が必ず混ざってくる以上、科目として学習することで対応するしかない。学習していない分野は早急にテキストなどで学習するとともに、1回学習した分野や時事で知ったニュースなどでも、テキストの該当部分をもう1回あたりながら各分野での用語の示す内容を、体系的に再確認する努力をしてみよう。そうすれば今回の第3問の問4 [17]や、第6問の問3 [34]などで見られた、「事項理解が不完全なため、正しい選択肢を避けて、一見正しそうな選択肢に飛びついてしまう」という解答行動を防げる。

◆分野として弱い箇所、学習したつもりの箇所の再学習を行う。

センター試験は、まんべんなく出題されるため、多くの分野に対応できる力を養成する必要がある。また第4問の問5 [26]のようなセンター試験独特の出題形式にも慣れる必要がある。受験者には、自分が間違えた分野の復習は当然として、少なくとも「冷戦後の国際社会」、「日本の伝統思想」、「国民所得」、「人権」については、次の模試までに再確認を行い、得意分野にする努力が求められる。